

令和 5 年度 県立那珂高等学校自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣を確立し、自主性・自立性を育みながら、希望する進路を実現する学校(誠実) ・ 国際理解教育を推進し、異文化を理解しグローバルな視点に立つ人材を育成し、地域社会に貢献する学校(進取) ・ 互いに尊重し合い切磋琢磨しながら、よりよく生きるための資質・能力を育てる学校(敬愛) 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>本校は、昭和60年に開校し、今年で創立39年を迎えた。創立以来、校訓である「誠実・進取・敬愛」のもと「進路指導の充実」、「国際理解教育の推進」及び「特別活動の充実」を学びの三本柱に据え、日々の教育活動に取り組んでいる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症により、国際交流など一部の学校行事が中止となったが、代替事業として、カナダ大使館訪問を行うなど、感染防止対策をしっかりと行いながら、ほぼすべての学校行事を開催することができた。そのため、基本的な生活習慣の確立や生徒相互の人間的なふれあいを深めること、異文化に対する関心理解を深めることなど、生徒一人一人の個性及び目標を尊重した教育活動を推進することができた。</p> <p>大学進学率は、35.8%で4年連続上昇している。国立大学の受験者数が3名、合格者が1名であった結果から、今後は、より早期から生徒への意識付けを行い、受験者と合格者の増加に努めたい。就職については、希望生徒24名全員の合格を達成することができた。公務員試験の合格は茨城県警2名</p>	<p>生徒の主体的な学びと育成すべき資質・能力を身に付けさせるための授業改善・学習評価の充実</p>	<p>① 授業時間の確保とRPDCAサイクルによる授業や学習指導法の改善</p> <p>② 評価方法の工夫・改善</p> <p>③ 家庭学習の習慣化と時間増のため、学習方法の指導の工夫</p> <p>④ 主体的な学びにつながる課外授業の充実と積極的参加促進</p> <p>⑤ 学校図書館・六葉館の積極的活用</p>	A
<p>高い目標へ向けた主体的な進路選択と教師の支援を含めた達成</p>		<p>⑥ 進路意識の高揚を図るための発達段階に応じた進路指導</p> <p>⑦ 進路情報等の収集・分析による計画的な進路指導</p> <p>⑧ 個別面談の質的・量的充実</p> <p>⑨ 生徒の探究活動と関連した進路指導</p>	A
<p>主体的で自律的な生活態度の確立</p>		<p>⑩ 基本的な生活習慣の定着と規範意識の涵養</p> <p>⑪ 進路と連携した生活指導の推進</p> <p>⑫ 教育相談による心のケアの充実</p> <p>⑬ 家庭や地域社会及び関係機関との密接な連携による問題解決</p>	A
<p>主体的で活力ある学校生活の実現</p>		<p>⑭ 感染予防対策の徹底と、学校行事やホームルーム活動等への積極的な参加の促進</p> <p>⑮ 生徒会活動や各種委員会活動の活性化</p> <p>⑯ 部活動等への積極的な参加の促進</p>	A

<p>をはじめ、計11名であった。今後も一人一人に寄り添ったきめ細かい丁寧な学習指導、進路指導を積み重ね、多様な進路希望を実現するための自主性・自立性を育み、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取り組みを一層推進していく。</p> <p>さらに、部活動においては、弓道部がインターハイ県予選会で第3位に入賞するなど、活発な活動により、関東大会、全国大会への出場をうかがう部も増えており、着実に成果をあげることができた。</p> <p>また、開かれた学校づくりに向けホームページの充実等を行っているが、地域や地域の中学生・保護者への浸透はまだまだ十分ではない。中学校卒業生徒数減少の中、昨年度は、志願倍率が0.96倍であったため、中学校教員、塾担当者等への積極的な説明、情報発信に努め、本年度は「志願者倍率1.0倍」を目標とする。</p> <p>そのために、職員が個に応じた効果的な教育活動が行える体制づくりを行い、多様な進路希望の実現を図っていく。さらに、那珂市等の地域社会活動に積極的に参画するとともに、日頃の学習成果と本校の魅力を広く周知し、開かれた学校づくりに努める。</p>		<p>⑰ 主体的に探究活動に向かう姿勢の育成</p> <p>⑱ キャリア・パスポートを適切に活用し、学びの蓄積と振り返りによる自己のキャリア教育の促進</p>	
	<p>日本や外国の文化に対する関心・理解の深化と、他者を尊重する態度の育成</p>	<p>⑲ 海外短期留学や異文化理解活動の円滑な実施</p> <p>⑳ 多様な交流事業等を通して国際理解教育の促進とグローバルな視点を持つ人材の育成</p> <p>㉑ コロナ禍の中での国際理解教育の推進に向けた取組の工夫</p>	B
	<p>働き方改革の推進</p>	<p>㉒ 職員全体による勤務時間を意識した働き方の推進</p> <p>㉓ 業務の整理と効率化</p>	B
	<p>個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業改善</p>	<p>㉔ 一人一人の学びに合わせた、指導の個別化と学習の個性化の推進</p> <p>㉕ 課題解決に向けた、協働的な学び合いの推進</p> <p>㉖ 1人1台端末環境でのICTの活用</p> <p>㉗ 「生徒による授業評価」肯定的回答者70%以上</p>	A

三つの方針		具体的目標	
<p>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</p>	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の確立により、生徒の自主性・自立性を育みながら、望ましい職業観を養うことで希望する進路を実現する。 ・ 国際理解教育を推進し、「異文化を正しく理解しグローバルな視点に立つ人材」を育成するとともに、地元の歴史・文化を重んじ地域社会と連携・協力する態度を養う。 ・ 互いに切磋琢磨するとともに思いやりの心を持ち他者と協働することにより、よりよく生きるための資質・能力を育てる。 	
	<p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「何のために学ぶのか」を意識させることで、自らの意志で進路を主体的に選択する資質・能力を育成する。 	

		<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自主的に活動し、いきいきと学校生活を送ることができる活力ある多彩な特別活動を実践する。 外国語授業や海外人材との交流をとおして国際理解教育を推進し、「異文化を正しく理解しグローバルな視点に立つ人材」を育成する。 家庭や地域社会、学校間で連携、協働するなど、学校外の資源を活用した学校教育活動を充実させる。
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> 地域や現代社会の諸問題に関心を持ち、積極的に探究しようという意欲のある生徒 自分の進路実現を目指し、日々努力することができる生徒 社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事や部活動に積極的に取り組む意欲のある生徒

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒自ら考える」授業を展開し、基礎力の定着と応用力を育成する。 	シラバスや学習指導計画に基づいて、学習内容と進度を適切なものとする。	A	<ul style="list-style-type: none"> 資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）、をバランスよく育成するための学習ツールとして、ICTを活用することによる更なる授業改善を図る。
		各種調査の結果を踏まえ、科目の特性に応じた効果的な学習方法を指導する。	A	
		少人数授業（国数英）の他、様々な授業形態を工夫して、生徒一人一人によりきめ細かい指導を実施し、レベルに応じて学力を向上させる。	A	
		課外授業を充実し、生徒を積極的に参加させる。	A	
		苦手科目の早期発見、早期改善に努める。	A	
教科	<ul style="list-style-type: none"> 文学的な教材（特に小説）と論理的な教材（特に評論）を中心に学び、指導の個別化を図りながら、現代文を読解する力を養う。 価値の高い古典教材を学ぶことにより、国際社会に通用する、自国の文化と伝統につ 	国語の基礎学力となる漢字力と語彙力を身に付けるために、積極的に辞書を引かせ、定着させるテスト等を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> 古典履修単位数減を補う方策を検討する。 古典文法、古典常識の定着を図る。 家庭学習の定着を図る。 予習～復習サイクルの確立を図る。 その場限りではない、語彙力を向上させる手立ての工夫を行う。
		課題等を工夫することにより、予習・授業・復習の学習サイクルを確立させる。	B	
		協働的な学び合いを活用し、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」を磨き、具体的に自己表現できる力を身に付けさせる。	A	
		読書週間に向けて、自主的に選書し読書する習慣をつくる。	A	
		「生徒による授業評価」肯定的回答者80%以上を目指す。	A	

	いて、A I ツールを活用しながら考察と理解を深める。				
地歴公民	・基礎学力の向上に努める。	・身近な素材を教材化し、授業で扱いテーマへの理解を深める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT利用におけるの双方向活用を行う。 ・学力差の拡大に伴う学習目標の設定、指導法の工夫を行う。 ・単位数の少ない新課程科目の実施方法を工夫する。
	・歴史的・地理的事象に対する関心を高め、自発的思考力を育てる。	・図説資料や視覚教材などを効果的に用いたり、I C Tを活用して生徒に探求させたりすることで興味関心を高める。	A		
	・現代の社会への関心を高め、自発的思考力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞などを活用し、生徒に国際社会や政治・経済への関心を高める。 ・授業で扱ったテーマについての話し合い活動を積極的に取り入れ「生徒による授業評価」肯定的回答者80%以上を目指す。 	B		
数学	・基礎学力の向上を図る。	・授業や教材における基礎・基本と応用の配分に配慮しつつ、進度を適切なものとする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用方法を模索し、活用の幅を広げる。 ・低学力層への指導を工夫して行う。 ・観点学習状況の評価の仕方を研究していく。
	・数学のよさを認識させ、積極的に活用する態度、判断力を育てる。	・学習内容の定着を図るための方策を徹底し、「生徒による授業評価」肯定的回答者70%以上を目指す。（授業展開、課題、小テスト、ICT機器の活用等）	B		
		・課外授業により学力上位層の実力を養成するため、課外授業継続率70%以上を目指す。	A		
		・少人数指導によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にし、基礎学力の向上を図る。	A		
理科	・基礎学力の向上を図る。	・社会情勢および社会の要望を考慮した授業計画を立案し実行することで、生徒による授業評価」肯定的回答者70%以上を目指す。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算力を養うために指導方法を工夫する。 ・各生徒の学習状況に応じた指導を工夫する。 ・単位数の少ない科目の実施方法について工夫する。
	・自然の物事、現象に対する関心を高め、科学的に探求しようとする態度を養う。	・家庭学習課題を適宜与え、基礎的内容の確実な定着を図る。	A		
		・ICTを活用し、自ら情報を収集し学び、探究する力をつけさせる。	B		
		・実験指導の充実を目指し、実験内容、方法等について、工夫改善および研修に努める。	B		
体育	・体力の向上を目指す。	・体力テストを通し、生徒自身の体力を把握する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの数値から体づくり運動を工夫する。 ・選択授業による生涯スポーツへつながるような授業展開を行う。
		・単元として、体ほぐし運動を実施する。	B		
	・運動技能の向上を目指す。	・各種目の特性を理解し、課題解決のための運動を行う。	A		
		・ルールや審判法を学ぶ。	B		
	・関心・意欲・態度の確立	・クラスマッチなどの体育的学校行事の企画運営を通して、運動の楽しさや喜びを味わえる	A		

教科	に努める。	ようにする。		・ 体育施設でのICTの活用を工夫する。		
		・ 自己の役割を把握し、公正、協力、責任などの態度を身に付ける。	B			
		・ 安全、健康に十分留意して活動する。	A			
		・ 「生徒による授業評価」 肯定的回答者70%以上を目指す。	A			
	保健	・ 心身の健康・安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を送るために必要な事項を理解し、知識を身につける。	・ 教科書以外の様々な資料も使用して授業を展開する。	B	A	・ ICTの活用において更なる創意工夫を行う。 ・ グループ活動の導入などによる言語活動を取り入れられるよう工夫を行う。
			・ 単元毎に学習ノートを行わせることによって、理解を深める。	A		
			・ 単元によっては実践実習を行わせることによって理解を深める。	A		
			・ 定期考査、単元プリントを使って理解度を向上させる。	B		
			・ 授業内容、方法等について教科内で工夫改善を図る。	A		
			・ 必要に応じて外部専門家による講義を開催する。	B		
	・ 「生徒による授業評価」 肯定的回答者70%以上を目指す。	A				
	芸術	・ 芸術を愛好する心情を育み情操を養う。	・ 美術については、課題を多面的に設定して、幅広く創造活動を体験することで、感じる力、工夫する力、表現する力を養う。	A	A	・ 用具の使い方に重点を置き、色彩感覚を養い実生活に役立てるものにする。 ・ 音楽を愛好するための技術的・理論的教育も充実させる。
・ 音楽については、音楽の基礎となる知識や技術などを習得させ、実際に活用できる能力を身につけさせる。			A			
・ 「生徒による授業評価」 肯定的回答者80%以上を目指す。			A			
外国語	・ 基礎学力の向上を図る。 ・ 家庭学習の習慣をつける。 ・ 積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を養う。	・ 授業を通して英語を読む（教科書、速読演習、暗唱大会原稿等）、聞く（音声CD、リスニング演習）、書く（作文、リテリング等）、話す（Q&Aやロールプレイ等）機会を増やし、4技能を統合的に育成する工夫をする。	A	A	・ ICT機器活用方法を工夫する。 ・ 評価につながる授業づくりや効果的な評価項目の策定について教員間での共通認識を図る。 ・ 英語暗唱大会の実施について再度検討する。	
		・ 早朝や放課後に課外を実施することで基礎英語力の定着を図るとともに発展的な内容も扱い、上位層の英語力向上を目指す。	B			
		・ 英語学習の動機づけと進路目標実現への一助として英検取得を推進し、特に2次試験対策指導を積極的に行う。	A			
		・ 課題（暗唱文・副教材等）を与えることで家庭学習の効果的な動機づけを図る。	A			

教科		<ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通して週1回小テストを実施する。評価にも加味し家庭学習の習慣化を図る。 		A				
		<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークやグループワークを利用した音読活動やQ&A、発表等のコミュニケーション活動の工夫に努める。 						
		<ul style="list-style-type: none"> ・「論理表現Ⅰ」と「コミュニケーション英語Ⅱ（3年選択）」では少人数の利点を活かして、英語でのコミュニケーションの機会を増やす。 						
		<ul style="list-style-type: none"> ・「英語コミュニケーションⅠ及び英語コミュニケーションⅡ」ではALTと連携を図りながら、基本的な英語運用力を育成する。 						
		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用した授業を展開し、効率のよい進め方を工夫する。 						
		<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒による授業評価」肯定的回答者80%以上を目指す。 						
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した生活を営むために必要な基礎的・基本的な知識技術の向上 ・安全指導と事故防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢や現状の生活課題に応じた授業内容の立案。 			A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実を図る教材の工夫を行う。 ・観点別評価の方法研究をする。 ・主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ・施設設備の充実を図る。
			<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに協働学習を取り入れ、生活事象の見方・考え方を深める。また、自己の生活を振り返り、発展的な学びへと繋げる。 			B		
			<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業内容の工夫を図る。 			A		
			<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(自作)に自己評価、授業の気づき等を加え、授業の振り返りを行い観点別評価へと繋げる。 			B		
			<ul style="list-style-type: none"> ・実験実習においては、協働学習を基本とし相互評価へと繋げる。 			A		
			<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒による授業評価」肯定的回答者70%以上を目指す。 			A		
			<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備、用具等の点検を十分に行う。 			A		
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様な実態に対応し、一人一人の個性を育て伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら調べ、まとめ、発表する活動、話し合いや討論の活動などを通して、情報活用の実践力が高まるような場面の時間をより多く作る工夫をする。 		A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高度化した教科書内容への適応や大学入学共通テストへの対策の検討をする。 ・生徒の進路に応じて、個別に 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・CBTテストで、70%以上正答に努める。 		A				
		<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒による授業評価」肯定的回答者80%以上を目指す。 		A				

					学習できる環境の整備を行う。
教務	・学習指導法の工夫と授業研究の推進	・ICT機器を活用した授業の指導法の研究、観点別学習状況の評価への取り組みを充実させる。	A	A	・観点別学習状況の評価方法の研究と改善を図る。 ・「考査成績及び評定処理に関する確認事項」の徹底により成績処理を円滑に行う。
		・授業の充実を図るためのシラバス（年間指導計画）を作成する。	A		
	・授業時間の確保	・出張、年休等における授業の確保（振替）に努める。	A		
	・校内研修の充実	・人権教育等についての教職員研修会を充実させる。	B		
	・広報活動	・中学校、地域との連携を図る。（学校説明会、中学校訪問、公開授業等）	A		
・学校案内、学校ポスター等刊行物の充実に努める。（中学校へのアピール）		A			
特別活動	・学校行事等を通じた帰属	・生徒を主体とした学校行事の企画・運営を行う。	A	A	・HR活動等を充実させ関係各部との連携を図り進路に活用する。 ・部員数をさらに増やし、活性化を図る。
	・意識・協調性の涵養	・クラスマッチ等を通して達成感や達成感を体験させ、クラスの連帯意識を培う。	A		
		・HR活動等を中心として、キャリアパスポートの適切な作成と活用を図る。	B		
	・部活動の活性化	・部活動の部員を確保するとともに活性化を図る。	A		
生徒指導	・基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	・マナーアップ週間を利用して挨拶等の全般的なマナーの向上を訴える。	A	A	・教員間の情報共有をさらに密にし、統一した指導を行う。
		・家庭と連携し、携帯電話・スマートフォンを正しく利用する態度の育成を図る。	A		
	・キャリア教育の充実	・年8回の服装指導で身だしなみの乱れを防ぐ。	B		
	・心の教育の充実	・教員間の連携を密にし、心に問題を抱える生徒の早期発見に努める。	A		
	・交通安全教育の推進	・交通安全講話等を通し、特に自転車の交通安全を図る。	A		
進路指導	・高い目標へ向けた生徒の主体的な進路選択と教師の支援	・生徒がより良い進路目標へ向けて努力できるよう、個別面談や進路相談・支援を積極的に行う。	A	A	・探究活動への積極的な参加を促す。 ・基礎学力、応用力の向上を図る。 ・志望理由書、小論文指導を充実させる。（文章力の向上） ・計画的、自主的な進路への取り組みを促す。 ・受検内容を早めに把握し、対
		・的確な各種進路情報を積極的に提供する。（進路情報誌、パンフレット、進路だより等）	A		
		・インターンシップへの主体的参加を促す。	A		
	・進学指導の充実	・平常課外や休業中課外への参加を促す。	B		
		・課外授業への主体的参加を促す。平常課外、休業中課外の量的、質的向上を目指す。特に3年生は参加者40人超を目指す。	B		
		・各種模擬試験の積極的利用を図る。1、2年生は年間2回全員が受験し、3年生についても70人超の生徒が受験するよう指導する。	A		

		・最後までしっかり学習する集団づくりの観点からも、共通テストを受験するように指導する（50人目標）。			策を図る。
図書	・学校図書館の整備の推進及び利用の促進	・生徒・教職員からの図書購入希望を積極的に募り、より充実した図書選定に努める。	B	A	・選書会を年2回実施できるよう図書委員への呼びかけの強化を図る。 ・図書館の利用者を増加させる方法の検討を行う。
		・図書館利用方法の簡略化を図り、より利用しやすい環境を整える。	A		
		・図書館利用者（貸し出し数）の増加につなげるため、朝の読書週間と年間多読賞の事前の呼びかけに力を入れる。	A		
		・図書委員会の活動を通年により充実させ、図書館の美化・整備に努める。	B		
保健 厚生	・学校とその周辺の美化と環境整備	・清掃用具の整備をはかるとともにその整理に努める。	A	B	・教室の環境整備を行う。 ・校外清掃活動の活性化を図る。 ・大掃除の際の全生徒の分担区域の工夫をする。
		・地域住民を考慮し、学校周辺と通学路、後台駅～五台小学校までの清掃活動をHR単位で実施し、美化意識の高揚を図る。	B		
		・教室・特別教室の美化、新型コロナ対策の徹底を図る。	B		
		・各分担地域、場所の清掃の徹底を図る。	A		
渉 外	・PTA活動の活性化と家庭との緊密な連携関係の構築	・PTA総会、研修会、校外指導等の各種行事への参加率のアップを図る。	A	A	・より一層の活動の活発化を図る。
		・広報紙等の充実を図り、学校と家庭の連携に努める。	A		
情 報	・ICTの推進及び情報セキュリティ体制の構築	・ICT機器を整備し、授業やHR運営においてICT技術を活用する。	A	A	・成績システムの利用向上を図る。 ・HPの更新スピードを円滑に行う。 ・情報機器の整備充実を図る。
		・情報セキュリティ体制を構築し、職員の啓蒙に努める。	A		
		・インターネットの活用を図る。（ホームページ等）	A		
		・授業における教職員のICT機器利用率100%を目指す。	B		
1 学 年	・基本的な生活習慣の確立	・挨拶の励行と、きちんとした服装、言葉遣いを身に付けさせる。	A	A	・基礎学力の定着を図るため、朝のSHR時の小テスト（英数国）及び新聞課題を継続する。 ・ICT活用においては、様々な学習ツールを用いて、生徒が主体となって学習に取り組める環境づくりをする。
		・遅刻防止等、時間の厳守に努めさせる。	A		
		・ICTの活用により、活動や体験等をきちんと記録させ、自己管理能力を高める一助とする。	B		
	・基礎学力の定着	・予習、復習、課題学習等を中心として、家庭学習や自主学習に毎日継続して取り組ませ、習慣化を図る。	B		
		・ICTの活用により、自ら学び、探究する力を身に付ける。	A		
		・課外授業や模擬試験等への積極的な参加を促す。	B		

	・特別活動への積極的な参加	・部活動や学校行事への積極的参加を促進し、活力ある学校生活を送らせる。	A		・進路意識の向上を図る。
	・進路目標の検討及び早期の決定	・個別面談、進路ガイダンス、大学見学会の実施及び的確な進路情報の提供等により、自己の進路について考えさせ、早期決定の支援をする。	A		
	・「道徳」教育の確立	・生徒一人一人の豊かな心を育て、将来に向けて人生や社会を切り拓いていこうとする道徳的実践力を高める。	B		
2 学 年	・基本的生活習慣の見直し	・校則を遵守させ、規律ある生活態度を育む。	A	A	・課題提出、学習記録等においてClassiの有効活用を更に進める。 ・進路決定に関わる情報、知識を身につけさせる時間の確保に努める。 ・進路目標の実現に向けて、各々が能動的に取り組む態度の養成に努める。
		・時間の厳守、挨拶の励行。	A		
		・服装、みだしなみ、ことば遣いに注意させる。	B		
	・学力の定着と向上	・予習、復習、課題学習を確実に行わせ、日々の授業を大切にしながら、学習内容を確実に定着させる。	B		
		・自主学習を毎日継続して取り組ませるとともに、学習の記録を毎日付けさせ、習慣化を図る。	B		
		・ICTの活用により、自ら学び、探究する力を身に付ける。	A		
	・進路目標の決定と実現に向けての意識の高揚	・校外模試、課外授業、各種検定、校外体験活動に積極的に取り組ませ、自分の実力を把握し、能力の伸長を図る。	B		
		・自己理解を深めさせ、幅広い情報収集を通して、個性や能力にあった進路を見出す努力を促す。	B		
	・特別活動や校外体験活動への積極的な参加	・部活動、生徒会活動、学校行事、校外体験活動に積極的に取り組ませる。	A		
		・委員会活動、清掃、当番活動を通じて自主性や責任感を育成する。	B		
・修学旅行を通じた総合的な学習	・団体行動を通して、協調性や責任感等を育成する。	A			
	・旅行先の歴史や文化を学ぶとともに、平和についての考えを深める。	A			
3 学 年	・進路を意識した生活の実践	・挨拶の励行と、きちんとした服装、言葉遣いを身に付けさせる。	A	A	・進学生徒の学力向上への意識を高め、一般選抜受験生の長期的・計画的な指導を行っていく。
		・時間の厳守に努めさせる。マナーを身に付けさせる。	A		
	・生徒一人一人の進路目標の	・校外模試、課外授業、校外体験活動等に積極的に取り組ませ、進路目標の実現を図る。	B		
		・家庭学習を充実させ、進路目標の実現を図る。	B		

	実現	・きめ細かい進路相談及び保護者との緊密な連携により、生徒全員の進路目標の実現を図る。	A	
	・特別活動への積極的参加	・部活動、生徒会活動、学校行事に最高学年として積極的に取り組ませる。	A	
		・委員会活動、清掃、当番活動を通じて最高学年としての責任感を育成する。	A	
国際交流	・日本や外国の文化に対する関心理解の深化と、他者を尊重する態度の育成	・海外短期留学の推進を図る。	A	B
		・海外からの留学生の積極的な受入の推進を図る。	C	
		・インターネットを利用して、外国の高校などとの交流をし、国際交流の活性化を図る。	C	
学習の推進	・自主的、自発的学習の推進 高揚と計画的、継続的学習の習慣化	・多目的学習館（六葉館）の利用を促進する。	A	A
		・公務員試験や共通テストへ向けた教材の利用を促進する。	A	
		・小テストや家庭学習（宿題）の課題を課すことで、学習の習慣化を図る。	A	
いじめ問題	・いじめの実態把握およびいじめに対する適切な措置	・本校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	A	A
		・教職員間の連携を密にして、生徒への声掛け等を積極的に行い、情報を共有する。	A	
		・SNS等によるトラブルが起こらないよう、啓発及び情報の収集に留意する。	A	
		・生徒主体のいじめ未然防止が実践できるような手立てと支援を工夫する。	B	
		・海外研修については実施に向けて前進させることができた。次年度は達成可能な目標の設定と、生徒の活動を取り込んで、活性化を図っていく。		
		・六葉館の自習室利用者の増加のための工夫をする。（18:30まで開館） ・各学年で、朝の小テストや新聞課題学習等の継続を図る。		
		・学校生活調査や声かけにより、生徒自身が主体的にいじめを未然に防ぐ言動を習慣づける。		

※評価基準（達成度） 【A】：100～80% 【B】：79～60% 【C】59～40% 【D】：39～20% 【E】：19～0%